

【研究の概要】

【研究テーマ】

多様な「観」を愉しむ図画工作科学習

【問題意識】

今日的課題について

令和7年10月6日に行われた教育課程部会芸術ワーキンググループ「芸術系教科・科目に関する現状・課題と検討事項」によると、表現及び鑑賞の活動の相互の関連付けが適切に行われていない状況があることが挙げられている。また、鑑賞に関しては、作品などの表現の意図や特徴、創造的な工夫などについて根拠をもって感じ取ったり、考えたりすることができるような指導の必要性について述べられている。

本校の課題について

図画工作科研究部では、表現と鑑賞を繰り返しながら活動できるような学習環境を整えている。昨年度の研究においても、材料や場の設定等を工夫することで子どもは仲間とかかわる中で、自分にとって新しいものやことをつくりだしていくことが見えてきた。しかし、自分と仲間の活動や作品をじっくりと鑑賞した上で、自分や仲間の活動や作品のよさに気付く姿や、その気付きを生かして自分の活動や作品をよりよくしようとする姿については課題が見られた。また、自分の表現の意図や特徴等について、根拠が明確でない姿も見られた。

【図画工作科学習でめざす子どもの姿】

感じる段階	・ 自分や仲間の活動や作品を鑑賞し、活動や作品の表し方の工夫に気付く姿
調整する段階	・ 気付いた仲間の活動や作品の表し方の工夫を生かし、自分の活動や作品を再構成したり、そのよさを改めて実感したりする姿

【研究の視点①】

多様な「観」を子どもから表出させるための手立て

【研究の視点②】

子どもが多様な「観」を愉しむための手立て

【研究内容】

図画工作科学習では、「活動や作品をつくりだすことは、自分にとっての意味や価値をつくりだすことであり、同時に、自分自身をもつくりだしている」という考え方を大切にしている。そのため、「みんな違ってみんないい」ことを認め合う学習環境を整えていくことが重要である。また、そのような環境の中で、子どもがつくりだしていく活動や作品そのものには、多様な「観」が表出していると考えられる。

そこで、図画工作科研究部では、子どもが選択した活動や作品そのものを「観」と捉える。本研究では、活動の過程で表出する行動や発言と、作品そのものが、どのように関連しているのかを分析していきたい。

1 仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の表し方の工夫を実感するための学習環境の工夫

「みんな違ってみんないい」ことを認め合うためには、より多様な仲間について知ろうとしたり、理解しようとしたりする姿勢が大切である。また、多様な仲間とのかかわりは、自分の活動や作品のよさを見つめ直すきっかけになるのではないかと考える。

そこで本年度は、以下のように学習環境（人・場所・時間）を工夫することで、互いの活動や作品の表し方の工夫に気付いたり、実感したりすることができるようにしたい。

(1) かかわる仲間の広がり

他学級の仲間や作品等とかかわる時間や場所等を設定することで、多様な「観」と出会うことができるようにする。

(2) 意図的な鑑賞の時間の設定による視点の明確化

仲間の活動や作品を鑑賞しながら、活動や作品をみる視点を明確にすることで、その造形的なよさに気付くとともに、自分の活動や作品の表し方の工夫などについての根拠をもち、その後の活動や作品に生かすことができるようにする。

手立ての有効性については、抽出児の発話記録、行動記録、作品及び振り返り等を基に検証する。

1 題材名

あの日あの時の気持ち

2 題材の目標及び評価規準

A 表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、共通事項(1)ア、イ

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
絵の具や筆などを使って絵に表すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かり、用具を活用しながら、手や体全体を十分に働かせ、表し方などを工夫して表すことができる。	生活の中で感じたことや、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、表し方を考え、仲間の作品などから、自分の見方や、感じ方を広げることができる。	進んで絵に表したり、鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 絵の具や筆などを使って絵に表すときの感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ② 絵の具や筆などの用具を活用しながら、手や体全体を十分に働かせ、表し方などを工夫して表している。	① 生活の中で感じたことや、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、表し方を考えている。 ② 仲間の作品などから、自分の見方や、感じ方を広げている。	① つくりだす喜びを味わい、進んで絵に表したり、鑑賞したりする学習活動に、取り組もうとしている。

3 題材について

本題材は、生活の中で心に残ったことや、その時の様子や気持ちを絵に表す活動を通して、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり、楽しく豊かな生活を創造しようとすることをねらいとしている。

心に残ったことやその時の様子や気持ちは、人によって異なる。また同じような場面や出来事においても、感じ方は多様である。水彩絵の具は、絵の具や水の量、筆の使い方などによって、表し方を工夫することができるため、様子や気持ちなどを表すことに適している。さらに、クレヨンなど他の描画材も選択することができるようにすることで、更なる工夫が期待できる。また、多様な表し方の工夫がある作品を鑑賞することで、作品の形や色などから様子や気持ちの表し方に気付き、自分の見方や感じ方を広げることができるであろう。

本題材を学習することは、仲間とのかかわりを通して、自分の見方や感じ方を広げるとともに、豊かな感性を育むことができ、意義深い。

4 子どもについて

子どもは、題材「絵の具+筆+水=いいかんじ!」において、絵の具や水の量、筆の使い方等を工夫する中で、絵の具と水を混ぜることで色の濃淡ができること、筆の動かし方によって多様な形や線ができることに気付いていた。図画工作科学習においては、活動に意欲的に取り組む姿が見られる。特に、仲間の作品を鑑賞しながらその作品のよさを見付ける子どもが多くいる。しかし、見付けた作品のよさを基に自分の活動や作品をよりよくしようとする姿は一部の子どもにとどまっている。

抽出児について

※ 個人情報保護の観点から、省略します。

5 研究内容

<p>本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿</p> <p>本学級の仲間や本校第4学年の子ども（以下4年生）の作品を鑑賞し、作品の表し方の工夫に気付く姿。仲間の作品の表し方の工夫から、自分の作品を見直したり、気付いた工夫を取り入れたり、仲間の作品と自分の作品を比較したりした上で、自分の作品のよさを改めて実感する姿。</p>
<p>1：仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の表し方の工夫を実感するための学習環境の工夫</p> <p>本題材では、意図的な鑑賞の場を設定する。「生み出す」段階では、教科書の参考作品を鑑賞する時間を設定することで、題材のめあてを明確にすることができるようにする。「挑む」段階では、4年生が第3学年のときに製作した作品を鑑賞する時間を設定することで、表現の工夫に気付くことができるようにする。「生かす」段階では、自分や仲間の作品のよいところを、形や色などの感じを基に鑑賞の視点を明確にすることで、造形的なよさに気付くことができるようにする。</p> <p>本時では、鑑賞の時間を導入の場面に設定することで、鑑賞したことを基に自分の作品の表し方に生かすことができるようにする。4年生が第3学年のときに製作した作品とかかわることで、新たな「観」にふれることができるようにする。その際、作品に描かれた人物の表情や背景のぬり方などに着目させることで、形や色などの感じが分かり、どうすれば様子や気持ちを表すことができるかを考えることができるようにする。</p>

6 題材指導計画（8時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	情意・態度	態
生み出す (1)	<p>1 心に残っていることを想起し、絵に表したい場面や出来事を選択する。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材との出会い <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材のめあて ○ 参考作品の鑑賞 <p>心に残っていることや、その時の様子や気持ちを絵に表そう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材名を提示した上で「気持ちにはどのようなものがあるのかな。」と尋ね、仲間と話す時間を設定することで、気持ちには様々なものがあることに気付くことができるようにする。 ○ 参考作品を提示し、作品から伝わる場面や気持ちを考える場を設定することで、作品の形や色などの感じから、作品の表し方について考えることができるようにする。 		①	
				②	
挑む (6)	<p>2 心に残ったことを絵に表す。 〈6時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 描画材の選択と下描き (1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の具 ・ クレヨン ・ 鉛筆 ○ 絵の製作 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「花火をかきたいな。」 ・ 「うれしい気持ちを表したいな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 描画材の違いによる形や色などの感じが分かる参考作品を提示し、鑑賞する時間を設定することで、それらのよさや違いに気付いた上で、絵に表す際の描画材を選択する視点をもつことができるようにする。 		①	①
				①	
				①	①
				②	②
本時 5/8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞と絵の製作 (2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「花火にもいろいろな表し方があるね。」 ・ 「うれしい気持ちは明るい色を使って表せそうだな。」 ○ 絵とキャプションの製作 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生が第3学年の時に製作した作品を、形や色など感じの視点をもって鑑賞させることで、表し方の工夫に気付くことができるようにする。 ○ 仲間の作品から気付いた表し方の工夫を共有する場面を設定することで、自分の作品を見直したり、自分の作品に生かしたりすることができるようにする。 ○ 形や色などの感じを基に表し方の工夫に着目させることで、自分のキャプションを書くことができるようにする。 		②	②
			①		
生かす (1)	<p>3 鑑賞会をする。 〈1時間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの作品の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形や色などの感じから、様子や気持ちが伝わるかどうかの視点で作品を鑑賞する時間を設定することで、仲間の作品の表し方の工夫に気付くことができるようにする。 		②	①

7 本時の目標

仲間の作品から気付いたことを基に、自分の見方や感じ方を広げ、形や色などの感じを工夫して絵に表そうとすることができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>○ 題材のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>心に残っていることや、その時の様子や気持ちを絵に表そう。</p> </div> <p>2 参考作品を鑑賞する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【花火】 【花火】 【花火】</p> <p>○ 表し方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな線や形の花火があるね。」 ・「右側の花火は筆を何度も重ねているみたい。」 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【水族館】 【ピアノの発表会】</p> <p>○ 形や色などの感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女の子の表情が明るくて、周りがピンク色だから、喜んでいるように見える。」 ・「顔に汗をかいているね。周りにぬってある形や色から緊張している様子が伝わるな。」 <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仲間の作品を鑑賞し気付いたことを生かして、形や色を工夫して絵に表そう。</p> </div> <p>3 参考作品を鑑賞した視点を基に、自分の作品の形や色などの感じを工夫しようとする。（★）</p> <p>○ 形や色などの感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「嬉しい気持ちを表したいから、周りを黄色などの明るい色で塗りたいな。」 ・「花火の形を工夫して表したいから、上から絵の具やクレヨンで描き込んで、形をはっきりと見せたいな。」 <p>4 本時の学習を振り返る。（★）</p> <p>○ 鑑賞</p> <p>○ 鑑賞したことによる変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「背景の色を明るくすることで、楽しい気持ちを表したよ。」 ・「表情を工夫すれば、気持ちが伝わりやすいたことが分かったよ。」 	<p>○ 前時までの作品を仲間と鑑賞する機会を設定することで、自分や仲間の作品について知り、作品製作の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ テーマが同じ4年生の作品を提示することで、描く人によって同じテーマでも表し方の違いがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「花火を描いているが、3つの絵の花火の描き方や形はすべて同じかな。」と尋ねることで、描画材の使い方による、花火の形や色などの線や色づかいのよさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 作品の表情や背景などに着目できるような言葉かけをしたり、作品から気付いたことを共有する時間を設定したりすることで、様子や気持ちの表し方が多様であることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「どうすれば自分の気持ちやその時の様子が伝わるかな。」や「鑑賞した作品にはどんな工夫があったかな。」と尋ねることで、表情や背景の形や色などの感じを生かして表そうとすることができるようにする。</p> <p>○ 互いの作品を鑑賞する時間を設定し、前時との作品の変容を尋ねることで、表情や背景などといった形や色などの感じを根拠に作品について話すことができるようにする。</p>

9 本時の評価規準

仲間の作品から気付いたことを基に、自分の見方や感じ方を広げ、形や色などの感じを工夫して絵に表そうとしている。
 （思考・判断・表現②）【発言分析・行動分析・作品】

6月23日(火)

あの日あの時の気持ち

題材のめあて

心にのこっていることやその時の様子や気持ちを絵に表そう。

題材計画

3 4 5 6 7

× 題材との出合い

絵に表す

モデラシオン

鑑賞

めあて
仲間の作品を鑑賞し
気づいたことをいかして
形や色を工夫して絵に表そう。

活動	13:20 ~ 13:40
ふりかえり	13:40 ~ 13:45
片づけ	13:45 ~ 13:50

